

650.23-N48ウ



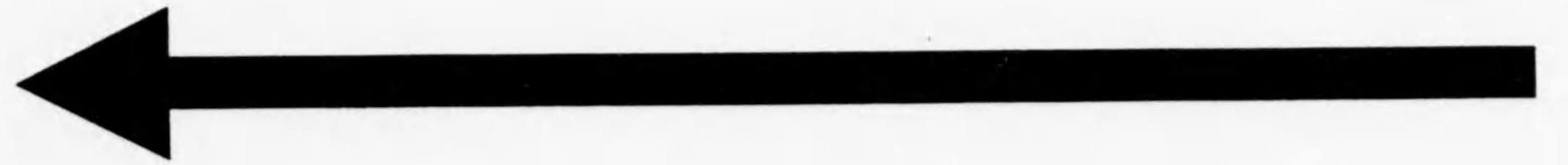
1200501936249

5023
N48

南方園研究会
研究資料第七輯
比律賓森林樹木の研究
同會編
(四)



始



92
E
4

昭和十八年七月十日

研究資料第十八輯

【非賣品】

比律賓森林樹木の研究
(四)

發行所 南方圈研究會

650.23
N48

目次

はしがき

Aranga 種属(1)
 The arangas(1)
 Binuang 種属(3)
 Banaba 種属(3)
 Batitinan(3)
 Banaba(6)
 Pagatpat 種属(7)
 Pagatpat(7)
 Putat 種属(8)
 Mangrove 又は Bacauan 種属(9)
 The bacauans(10)
 The pototans(10)
 Tangal(12)
 紅樹類主要樹木要覽(12)
 Talisay 種属(15)
 Calumpit(15)
 Dalinsi(18)
 Talisay-gubat(18)
 Sacat(21)
 Talisay(22)
 Binggas(22)
 Toog(24)
 Eucalypt 又は Macaasim 種属(26)
 The macaasims(26)
 Mancono(27)
 Kulis 種属(30)
 Ginseng 又は Malapapaya 種属(31)

はしがき

比律賓群島には無慮數萬種の樹木があるが、その内の主要樹木について、一般的の知識を得ようとするのがこの研究である。研究の内容は、例へば『カカオ』は何科に屬する植物で、フリツピンでは『ツゴン』といひ、その木の高さ、直径、外皮及び軟皮の色、葉の形狀とその大小、或は外皮の脱落状態とか、落葉の有様、生育せる土壤、乾季と雨季に於ける状態、邊材及び心材の色調、硬軟強弱、用途、分布地方、學名、地方名又は商業上に於ける地位等を、各種について、能ふだけ詳細に説明してあるのが、この研究資料である。

『研究資料』第十三輯から第十八輯（第十五輯、第十六輯を除き）までは一般主要樹木に就ての研究を發表し、その後は更に各種屬の箇々についての詳細な研究を發表する豫定である。

第十三輯卷末は主要樹木の科、種類、公稱名及び一般商業用名稱、並に各群島名及び地方名の原語表が添付してある。

昭和十八年七月

南方圈研究會

Malapapaya	(31)
Dogwood 又は Malatapai 種屬	(32)
Gutta-percha 又は Betis 種屬	(33)
Betis	(33)
Bansalaguin	(35)
Nato	(36)
Malacmalac	(37)
Manicnic	(38)
Persimmon 又は Ebony 種屬	(39)
Ebony	(40)
Camagon	(41)
Bolongeta	(42)
Ata-ata	(44)
Strychnine 又は Urung 種屬	(45)
Dogbane 又は Dita 種屬	(46)
Dita	(46)
Batino	(47)
Lanete	(48)
Anonang 種屬	(50)
Teak 又は Molave 種屬	(50)
Molave	(50)
Sasalit	(54)
Teak	(56)
Catalpa 又は Banai-banai 種屬	(58)
Coffee 又は Bancal 種屬	(59)
Bancal	(59)
Calamansanay	(61)

比律賓森林樹木の研究 (四)

アランガ科植物 (*Flacourtiaceae*) いんぎり科

アランガ類 (*Aranga*)

タカサゴノキ (*Hondium*) 属の數樹種は「アランガ」と稱する材を提供する。以下ホマリウム・ルソニエンセ (*Hondium luzonense*) に就いて述べて見よう。

この樹木は、樹高三十米乃至四十米、直径八十糎乃至九十糎に達する。樹幹はかなり通直、整形で著しい板根があり、主としてタババス州及びカマリネス州に散在する。

樹皮は厚さ八糎乃至一糎二糎、灰色又は褐色、時には縦條があつて表面は稍不平滑である、葉は單

葉、互生、平滑で縁は稍波狀を呈し、長さ七糎乃至二十糎、幅三糎五糎乃至十二糎五糎である。邊材は黄色、中心へ近づくにつれ徐々に色が濃くなつて黄褐色又は赤褐色の心材となる。心材には不規則なチヨコレート色の條がある。材質堅重、木理は麗はしい。海水中又は地中にて耐久性がある

ため、杙、海軍建造物に重寶である。その他家屋建築（床、室内造作、柱、桷）、簞笥、鐵道枕木に用ひる。

ホマリウム・ブラクテアツム (*Homalium bracteatum*)、バランダ (*baranda*)、バナヤヌム (*panayanum*) 及びビラリアヌム (*Villarianum*) の材は何れもアランガと稱せらる。但しこれ等の樹種の全體的習性は目下不明である。

『アランガ』と稱する樹種（一種に非ずして全樹種を含む）の地方名は左の通りである。

アンブプヨット (*Ampupuyot*) (ピサヤ語)、アランガン (*Arangan*) 及びカマガハニ (*Kamagahan*) (ア
ンボス・カマリネス州)、カムヨン (*Kamuyon*) (アブラ州)、ライン (*Laing*) (リサール州)、マタンボカル
(*Matanhokal*) (イロカノ語)、プヨット (*Puyot*) (ピサヤ語)。

前述した樹種の一種或は數種は左の地方にも産する。

ルソン島 (イロコス・スル、パンパンガ、ブラカン、バタアン、タヤバス、カマリネス)、ギマラス群島。

サンパレス州でカラマンサナイと稱するフラコルチア・イネルミス (*Flacourtia inermis*) の材はマ
ニラ市場に出ない。市場でカラマンサナイと稱する材は異科に屬する樹木である。(後述カラマンサナイ
の項参照)

ビヌアン科植物 (*Binuang*) (*Datiaceae*)

代表的用材樹木にはビヌアン又はビルアン (*Ocmeles sumatrana*) の喬木がある。河川に沿ふてよく生育し、處女林の主要部分を除去すればその後群生する。樹皮は厚さ一種二耗乃至一種八耗、灰褐色又は赤褐色。材は輕軟、筏の浮標及びマツチの軸木に用ひる。

バナバ科植物 (*Banaba*) (*Lythraceae*) みそはぎ科

葉は對生或は類對生で、韌皮を切つて外氣に曝せば直ぐ紫色となるから容易に識別することが出来る。

バチチナン (*Batitan*)

樹高三十米乃至四十米、直徑八十種乃至九十種に達する。樹幹は彎曲せるもの或は稍通直なるものがあり、横断面は概して角ばつてゐる。顯著な板根があり樹冠は樹高の約五分の二を占め、不整形で平たく横に延び、殆んど平面となつてゐる。乾燥した丘陵ではヤカル・ラウアン林及びモラベ林に交り海邊平地ではラウアン・ハガチャク林に交つて散在する陽樹である。



(挿圖五十一) Batitinan (*Lagerstroemia Piriformis*)

上部は花集、左下は果實 (實物の約二分の一)

樹皮は厚さ四耗乃至五耗、灰色で、幅約五耗の不明な長い隆起線に沿ふて割れる。新樹皮は褐色、正方形、矩形、長菱形の皺れた紙のやうな薄片が附着して居る。韌皮には黄色、灰色交互の放射組織があり、邊材に接する部分は外氣に觸れると忽ち暗紫色となる。葉は對生又は類對生で長さ六耗乃至十二耗、幅二耗乃至五耗である。

邊材は稍灰色、心材は綠灰色或は暗褐色。木理は通直で麗はしく、年輪が明瞭であり、堅重で耐久力が強。

用途、家屋建築 (柱、床、梁、桷、家内造作)、造船 (内龍骨、檣、側面、甲板)、枕木、杙、電信柱、家具、工具の柄。

分布、ルソン島 (リサル、バタンガス、タヤバス、カマリネス、ソルソゴン、アルバイ)、サマル島、レイテ島、オックシデンタル・ネグロス島、ミンダナオ島 (サンボアング、ダバオ)、バシラン島。

學名、ラゲルストロミア・ピリホルミス (*Lagerstroemia piriformis*)

地方名、バグナウム (*Bagnanum*) (ダバオ地方)、ブガロン (*Bugaron*) (サマル島)、ヂングラス (*Dinglas*) (タヤバス州)、リナン (*Linan*) (ソルソゴン州)、マンタリンガ (*Mantalinga*) (サンボアング地方)、チナアン (*Tinaan*) (アンボス・カマリネス州)。

北部ルソン島ではバチチナンを『ビンガッス (*Binggas*)』及び『ラシラ (*Tasila*)』と稱するが、『ピ

シガツス』、『ラシラ』はテルミナリア・コミンタナ (*Terminalia cominkana*) に應用すべき名稱である。又テルミナリア・コミンタナはバチチナンとして通用する時もある。バチチナンは一名フィリッピン・チークともいはれて居る。

バナバ (Banaba)

樹高二十五米乃至二十八米、直径八十糎。樹幹は不整形で、廣く開いた樹冠は、乾季に落葉する。間隙ある森林で流れに沿ふて散在するか、再生林に生育する陽樹である。

樹皮は厚さ二糎乃至四糎、黄色を帯びた灰色又は褐色で、美しい縦條を有するか鱗片状をなして居る。邊材に面する部分は外氣に接すれば直ちに紫色となる。葉は對生或は類對生、長さ七糎乃至二十四糎、幅三糎五糎乃至十一糎で平滑である。

邊材は淡いピンク色、心材は赤褐色。堅重で木理は通直、耐久力がある。

用途、家屋建築(柱、桷、梁、床、闕、仕切、室内造作)、ボート、埠頭、杙、家具、水牛の軛、櫓、枕木、工具の持手。

分布、バタネス群島、ルソン島(カガヤン、イロコス・ノルテ、イロコス・スル、アブラ、ベンゲエツト、パンガシナン、ヌエバ・エシハ、バレル、サンバレス、パンパンガ、ブラカン、バタアン、リサル、ラダナ、バタンガ

ス、タヤバス、カマリネス)、ミンドロ島、サマル島、レイテ島、ギマラス島、オックシデンタル・ネグロス島、ミンダナオ島(ミサミス)パラワン島。

學名、ラゲルストロエミア・スベシオサ (*Lagerstroemia speciosa*)

地方名、ダニオウラ (Danoura) (北部ルソン島)、カニラン (Kanlian) (ギマラス島)、マカバロ (Makabalo) (パンガシナン州)、ミトラ (Mitra) (パンパンガ州)、マアラウアロン (Pamarauagon) (サマル島)、ラサブキン (Parasubking) (ミサミス州)、タバンガオ (Tabango) (イロカノ語)、タナガナン (Tanaganan) (カガヤン州)。

パガットパット科植物 (Somneriaceae) まやぶしき科

パガットパット (Pagatrat)

樹高中庸乃至大きく、樹幹は通直で整形、全島を通じて紅樹林^{マングローブ}に叢生する。紅樹林の樹木中最も高く、用材としてその大きさは申分ない。

樹皮は厚さ八糎乃至十二糎、褐色又は灰色、隆起線及び鱗状となる傾向がある。韌皮は赤褐色で淡色の纖維組織を有して居る。

葉は對生、長さ六種乃至十二種、幅四種乃至八種、類圓形をなし、厚く革質である。邊材は淡褐色、心材は暗褐色、木理は美しい。重くして耐久性があり、鹽分を多量に含有して居るから釘は錆び、釘周囲の材は變色する。

用途、家屋建築(床、側面、室内造作)、橋梁、電信柱、ボートの張板、家具、枕木、樂器。氣根は『ダ
ル(Dalun)』と稱し、剃刀砥に用ふ。

バガットバットは全島を通じて、潮流の影響を受ける沼地に生育し、特に沼地の外郭を好む。北部諸島よりも南部諸島に多し。

學名、ソネラチア・バガットバット (*Sonneratia pagatpat*)

市場では『モントル』と稱することもある。

ミンダナオ島地方で『ベダダ』と稱するマヤプシキ (*Sonneratia*) 屬の一種は、バガットバットより葉が細く、沼地の内部に生育する。

プタット科植物 (Putat) (*Lecythidaceae*) さがりばな科

樹種は相等多數あるが商業上重要ではない。葉は互生の單葉である。

ボトン (*Botong*) (*Barringtonia speciosa*) は樹高中庸、葉、花、果實共に大きく(果實は漂流するに適す)。

全島到る處の砂の多い海岸に生育する。

バリングトニア・ラセモサ (*Barringtonia racemosa*) 及びその近似樹種は一括して『プタット』と稱し、紅樹林の背後或は川に沿ふて地下水の浅い地に生育する。材は色淡く、軟質で多孔、用途は地方的で狭し。

ラモン (*Lamog*) 又はアブラン (*Apalang*) (*Planchonia spectabilis*) は樹高中庸乃至大、二羽柿科林の所々に散在する。材色は暗赤褐色、木理が麗しく、堅重である。

紅樹又はバカウアン科植物 (Mangrove, Bacauan)

(*Rhizophoraceae*) ひるぎ科

ひるぎ科植物は種々な點で世界の特殊植物で、二三を除けば殆んど全て潮流に近い濕地帯に生育し、紅樹林の主要部分をなして居る。

紅樹類の葉は單葉、對生、革質である。潮流に近い沼地に生育する樹種の種子は樹上にある中から發芽し、苗となつても葉はなく、潮流に運ばれて一度安住地に達するや、迅速に成長して樹木となる。

材は堅重で著しい樹脂線がある。

フィリッピン島に於ける主要薪材であり、その收斂性ある樹皮は薬石及び製革に用ひる。
紅樹類の主要樹木を大別すれば、バカウアン類、ポトタン類、タンガルの三種がある。

バカウアン類 (Bacauan)

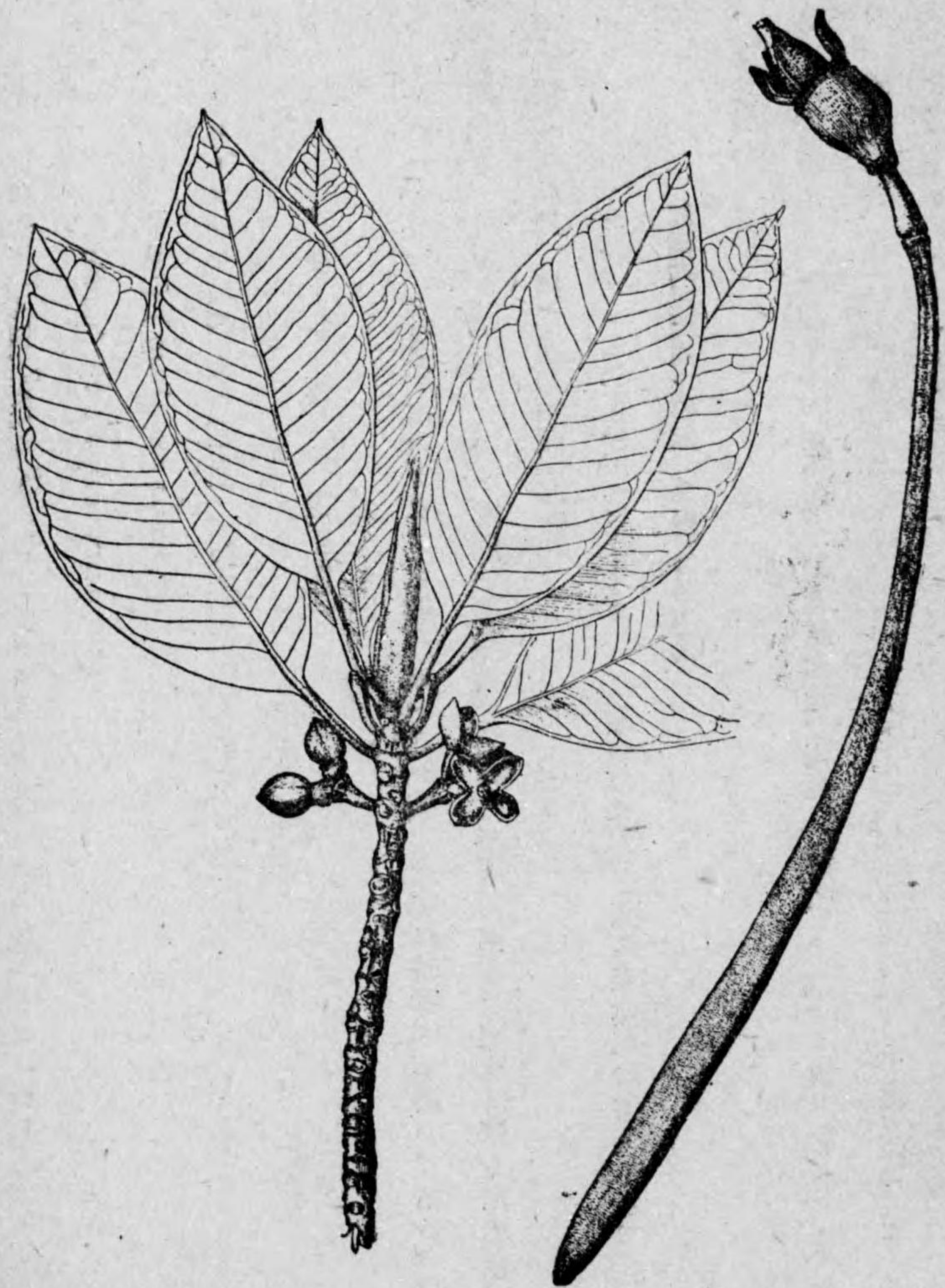
著しい支柱根を有する特徴がある。バカンアン類には二種即ちバカウアン (*Rhizophora conjugata*) とバカウアン・ララキ (*R. mucronata*) がある。

バカウアンは樹高二十米乃至二十二米、直径四十糎乃至四十五糎に達するが、普通はこれより小さい。樹皮は厚さ二糎乃至三糎、類黒色で粗糙、鱗状をして居る。葉は長さ十一糎乃至十四糎、幅三糎乃至七糎。花梗は長さ五糎或は殆んど無梗で、花が二個づゝ集る。

バカウアン・ララキはバカウアンより稍大きく、花梗は長さ二糎五糎で、花は三個づゝ集る。葉は長さ十一糎乃至十八糎、幅五糎乃至十二糎である。

ポトタン類 (Pototan)

樹高二十米乃至二十五米で、バカウアン類との相違は、葉が小さく支柱根のないことである。樹皮は暗色、類黒色で、韌皮は厚く黄褐色を呈する。ポトタン類には左のやうな樹種がある。



(挿圖五十二) Bacauan (*Rhizophora conjugata*)
左は葉と花、右は發芽した種子 (實物の約二分の一)

ブサイン (Busain) (*Bruguiera gymnorhiza*)
 ランガライ (Langarai) (*Bruguiera parviflora*)
 ポトタン (Pototan) (*Bruguiera eriopetala*)
 ポトタン・ララキ (Pototan-lalaki) (*Bruguiera caryophylloides*)

タンガル (Tangal)

タンガル (*Cerops tagal*) はバカウアン類、ポトタン類に比すれば樹木が矮小である、樹皮は褐色乃至類黒色で、點々と散在する大きな圓い小隆起を除けば平滑である。韌皮は厚く稍赤色、葉は長さ四種五耗乃至九種、幅二種乃至四種五耗。

バカウアン・グバット (*Canalia integrina*) は湿地の外側を廻る森林中に疎生する。

紅樹類主要樹木要覽 (異科の樹種も含む)

一、支柱根がある。

A 葉の長さ十一種乃至十四種、幅三種乃至七種、花梗五耗以下、花は二個集る (一) バカウアン。

B 葉は稍大、長さ十一種乃至十八種、幅五種乃至十二種。花梗の長さ二種五耗、花は三個集る。

(二) バカウアン・ララキ。



(挿圖五十三) Busain (*Bruguiera gymnorhiza*)

左は葉と花、右は果實の殘部が附着した苗 (實物の約二分の一)

二、支柱根がなす。

A 単葉、對生、裏面は非白色。

(1)葉先が鋭し。

花の長さ二種五耗以上。

葉の長さ七種乃至十四種、幅二種五耗乃至五種五耗。花は通例赤色である。(三)ポトタン。

花の長さ一種二耗半以下。

葉の長さ七種乃至十五種、幅三種乃至六種、花は通例黄色。(四)ブサイン。

花の長さ一種二耗半以下。

葉の長さ五種乃至九種、幅一種五耗乃至二種五耗。花は通例黄綠色又は白色。(五)ランガライ。

葉の長さ七種乃至十一種、幅三種乃至五種五耗、花は通例黄色。(六)ポトタン・ララキ。

(2)葉先が鈍形又は圓形。

葉の長さ七種五耗乃至十種五耗、幅三種乃至五種五耗。樹木矮小、樹皮赤色。コルク質小隆起

が著しい。(七)タンガル。

葉の長さ六種乃至十二種、幅四種乃至八種、樹高中庸乃至大。薄片狀樹皮、地下根より短く氣

根が無數に發生して居る。(八)バガツトバツト。

B 單葉、對生、裏面白色(九)アビ・アビ。

C 單葉、互生。

裏面白色 (十)ツンゴン・ラテ。

裏面非白色 (十一)タバオ。

D 複葉、互生。

卵形 (十二)タビギ。

倒卵形 (十三)ピアガオ。

タリサイ (Talisay) 科植物 (Combrataceae) しゅんし科

コバテイシ屬 (*Terminalia*) の樹種中市場に用材として出るのは八種である。その中五種は著しく酷似して居るから互に混同され、名稱も取引人の知つて居るものを用ひ正確に區別されて居らぬ。コバテイシ屬の葉は互生、單葉、通例倒卵形で、小枝の先に密集する。タリサイ類の葉はすべて互生の單葉である。

カルンピット (Calumpit)



(挿圖五十四) Calumpit (*Terminalia edulis*)
 上部は果實 (實物の約二分の一)

樹高二十五米乃至三十米、樹幹は整形で通直、樹高の約半ばを占めて居る。軽い板根があり、樹冠は横廣く半ば開き、疎生する陰樹である。

樹皮は厚さ一糎乃至一糎二耗、黒褐色、不規則の低い隆起線があり、老樹皮は鱗状を呈して居る。韌皮は稍黄色、稀薄な水狀樹液を含む。葉は互生の單葉、長さ五糎乃至十五糎、幅二糎五耗乃至六糎平滑で小枝の先に小數集まつて居る。

邊材は淡黄褐色又は黄色、心材は淡赤褐色、材質は堅重中庸。木理は稍通直或は燃纏して居る。磨けば光澤を増し、水浸液は淡い紫色である。

用途、家屋建築 (柱、桷、側面、室内造作)、箆筒類、船舶の曲材。

分布、ルソン島 (カガヤン、イロコス・スル、レバント、ポントック、ヌエバ・ビスカヤ、サンバレス、バタアン、リサル、タヤバス、カマリネス)、ポリロ島、マスバテ島、ミンドロ島、ギマラス島、バラワン島、サンボアンガ地方。

學名、テルミナリア・エヅリス (*Terminalia edulis*)

地方名、バラスス (*Barasus*) (バラワン島)、ガユマエン (*Gayumayen*) (サンブレス州)、ギシト (*Gisit*) (N・Y)

カラウチット (*Kalautit*) (ヌエバ・ビスカヤ州)、カルマンノグ (*Kalumanog*) (マスバテ島)、マグタリサイ

(Magfalisay) (マスバテ島)、タヤタヤ (Tayataya) (ギマラス島)。

タリンシ (Dalinsi)

樹高二十五米乃至三十米、直径八十糎乃至一米に達する。樹皮は灰色又は褐色で隆起線をなす傾向がある。タリサイ・グバットに酷似し、屢々混同されることがあるが、葉、果實はタリサイ・グバットより小さい。葉は長さ五糎乃至九糎、幅三糎乃至六糎に及ぶ。

邊材は黄灰色或は黄色、心材は赤褐色、堅重中庸で、木理は通直、粗糙、水浸液は淡い黄色である。用途はカルンピットに等し。

分布、ルソン島 (バンガシナン、タルラック、サシバレス、タヤバス)、パラワン島。

學名、テルミナリア・ペルシダ (*Terminalia pellucida*)

地方名、アリトントン (Aritontong) (イロカノ語)、ハキト (Hakit) (サンブレス州)、カラウチット (Kalautit) (タルラック州)、マナオン (Manong) (バンガシナン州)、スボスボ (Subosbo) (サンブレス州)、その他タリサイ、グバットの種々な名稱も本材に適用されて居る。

タリサイ・グバット (Talisay-gubat)

樹高二十五米乃至三十米、直径八十糎乃至九十糎に達する。樹幹はかなり通直で整形、板根がない。樹冠は形が不定で、稍つぼまるものと稍開いたものがある。河邊低地或は斜面下部の二羽柿科林中に疎生する。

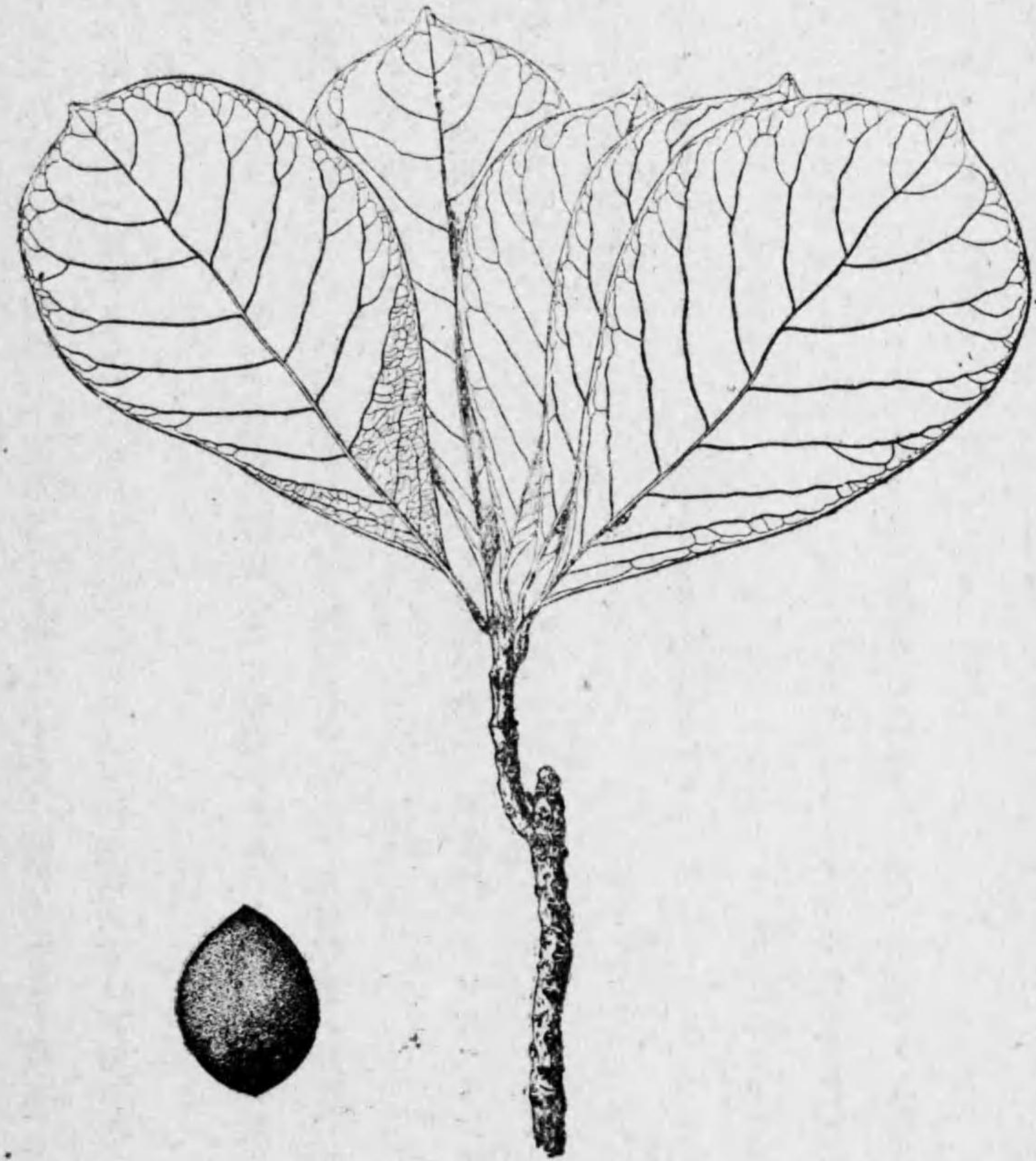
樹皮は厚さ八糎乃至一糎、褐色で低い隆起線をなす傾向がある。老樹皮は長い薄片となつて脱落する。靱皮は褐色で外面にはピンク色楔形の小片が附着して居る。葉は單葉、互生、平滑で倒卵形、長さ十糎乃至二十糎、幅六糎乃至十糎である。

材は暗赤褐色、堅重は中庸で、木理はかなり通直である。用途はカルンピットに等しい。

分布、ルソン島 (カガヤン、イロコス・ノルテ、リサル、ラグナ、タヤバス、インハンタ、カマリネス)、ミンドロ島、及びその他の諸州。

學名、テルミナリア・オーカルバン (*Terminalia obcordata*)

地方名、バリンシル (Balinsil) (インハンタ州)、カルンピット (Calumpit) (タヤバス州)、タリンシ (Dalinsi) (アンボス・カマリネス州、タヤバス州、カガヤン州)、カラウチット (Kalautit) (イロカノ語)、マラガビ (Malagabi) (ミンドロ島)、マラプタット (Malaputat) (リサル州)、サカット (Sacat) (カガヤン州)、タリサイ・デル・モンテ (Talisay-del-monte) (インタアン州)。



(挿圖五十五) Talisay-gubat (*Terminalia oöcarpa*)

左下は果實 (實物の約二分の一)

サカット (*Sacat*)

樹高二十五米乃至三十米、直径七十糎乃至九十糎に達し、二羽柿科の疎林に散在する陽樹である。樹皮は厚さ五糎乃至八糎、灰色又は褐色で稍黄色味を帯びたものもあり、美麗な縦條があり、時としてはコルク質小隆起が其處此處に附着して居る。靱皮は赤褐色、邊材に境する部分は黄色である。

葉は單葉、平滑で、長さ七糎乃至十五糎、幅三糎乃至八糎、小枝の先に束をして互生して居る。邊材は淡褐色、心材は灰色又は褐黄色。材質堅重中庸、木理は粗糙で通直である。水浸液は淡黄色輕建築物一般に用ひらる。

分布、ルソン島 (イロコス・ノルテ、イロコス・スル、パンガシナン、タルラック、サンバレス、バタアン、リサル、バタンガス、タヤバス)、マスバテ島、ミンドロ島、サンボアンガ地方。

學名、テルミナリア・ニテンス *Terminalia niensis*

地方名、カルンピット (*Calumpit*) (バタアン州)、ダリンシ (*Dalinsi*) (タヤバス州)、カラウチット (*Kalanit*) (イロカノ語)、マグタリサイ (*Magtalsay*) (マスバテ島)、スボスボ (*Subosubo*) (サンバレス州)。

以上の地方名から察して、カルンピット、ダリンシ、タリサイ・グバット及びサカットは互に混同され間違はれてゐることが容易に首肯される。植物標本のみにて各個を區別するは困難である。

タリサイ (Talisay)

生育地によつて濱地型と河邊低地型の二種があり、濱地型は樹高中庸で二十米を越すのは稀である。樹皮は濁褐色、木瘤が多い。河邊低地型は丈が高く、樹皮は灰褐色、厚さ一糎で縦の隆起線に沿ふて分裂する。溝にはコルク質小隆起があり、兩者共枝は輪狀に捲き込んで水平に延び、従つて樹冠は廣く扁平である。葉は大きく粗糙、長さ十四糎乃至三十三糎、幅十糎乃至二十糎。

邊材は淡褐色、時には黄色を帯びる。心材は赤褐色、堅重は中庸で、木理は光滑、稍彎曲して居る。(河邊低地型は通直)。水浸液は淡黄色である。

到る處の砂の多い海邊に分布し、洪涵平野ではその特異な枝で特徴づけられた叢林を形成して居る。

學名、テルミナリア・カタツバ (*Terminalia catappa*)

濱地型は普通タリサイと稱し、河邊低地型はタリサイ、ルマノグ、ラニバオと稱する。

ビンガッス (Binggas)

樹高三十米乃至四十米、直径八十糎乃至一米に達し、二羽柿科林の乾燥地に疎生する。



(挿圖五十六) Binggas (*Terminalia comintana*)

上部中央は花、右下は果實 (實物大)

樹皮は厚さ三耗乃至五耗、淡灰色で平滑、外皮の直下には灰色の紙質層がある。韌皮は褐色。葉は單葉、互生で平滑（嫩葉には絨毛がある）。長さ六耗乃至十五耗五耗、幅三耗乃至六耗五耗に及ぶ。

邊材は極く淡い褐色、心材は褐色又は暗灰色で紫色の條がある。材質堅重、木理は通直で美麗。耐久性があつてモラベ及びバチチナンと紛ふ。用途もこれ等の樹木に等しい。

分布、ルソン島（ガカヤン、イロコス・スル、パンガシナン、ヌエバ・エシハ、サンパレス、バタアン、リサル、カマリネス）、チカオ島、ミンドロ島、レイテ島、サンボアンガ地方。

學名、テルミナリア・コミンタナ (*Terminalia comitana*)

地方名、バチチナン・ババエ (Batihan babaye) (チカオ島)、デングラス (Dinglas) 及びその類似語 (タガログ語、ビサヤ語)、ヒナブシ (Hinabusi) (ミンドロ島)、ラシラ (Lasila) (イロカノ語)、マグラロボイ (Maglalopoi) (パンガシナン州)、マラタグム (Malatagum) (サンパレス地方)、ナグボ (Naghubo) (リサル州)、パラン (Palang) (リサル州)、サプルンガン (Saplungan) (リサル州)、チロン (Tiron) (マンボス・カマリネス州)。

ツ　　ー　　グ (Toog)

樹高は三十五米乃至四十米、直径八十耗乃至一米に達し、樹幹は通直で整形、板根がない。樹冠は

半ば開き、半陰地植物で、二羽柿科林中に生育する。

樹皮は厚さ一耗乃至一耗二耗、暗赤色であるが濡れると類黒色となり、不規則なコルク質隆起線がある。樹皮の脱落した部分は受皿大の浅い窪みとなつて残存する。韌皮は焦赤色で纖維質である。

葉は單葉、小枝の先に密に互生する。平滑で長さ十五耗乃至二十五耗、幅四耗乃至十耗である。邊材は稍黄色又は淡赤色、心材は鮮明な赤褐色。堅重は中庸で強韌、木理はかなり通直である。乾燥が不充分であると著しく反張する。

分布、ソルソゴン州、マスバテ島、サマル島、レイテ島。

學名、テルミナリア・クアドリアタ (*Terminalia quadrilata*)

『ツীগ』以外の地方名は聞かない。

ツアイ (T'ai) (*Bischofia javanica*) は一名『ツীগ』とも云ひ材も酷似して居るから混同され易い。マラカルンピット又はカラマンサナイ (*Terminalia calanansanai*) は市場でカラマンサナイと稱する材を提供せるものと思はれてゐたが、市場のカラマンサナイはこの樹種ではない。(カラマンサナイの項参照)

タブオ (Tabao) (*Limnizera litorea*) はマングローブ林にある小木である。材は黄灰色又は褐灰色で時に赤味を帯びたものもある。堅重で木理が美しく耐久力も強い。家屋建築、柱、杣、車軸に用

ひ、ボルネオでは打込丸太としてピリアンに次ぐものと看做されて居る。花は赤色で花序は腋生である。

ヒルギモドキ (*Lumnitzera*) 属の一種 (*L. racemosa* Willd.) は白色の花を開き花序は頂生である。

ユーカリプト科又はマカアシム (*Eucalypt*, *Macasim*) 科植物 (*Myrtaceae*) てんにんか科

樹種が多く、樹高も大中小様々である。葉は概して對生、往々明白な油腺 (透明粒) がある。樹種の説明書が十分集らないから、用材として重要なものだけを略述して置かう。

マカアシム類

マカアシム材を提供する樹種には次ぎのやうなものがある。

Eugenia benthamii

E. minica

E. philippensis

E. bordenii

E. vidaliana

Decaspermum paniculatum

以上の中マラルハット (Malabarhat) (*E. bordenii*) が最も豊富である。

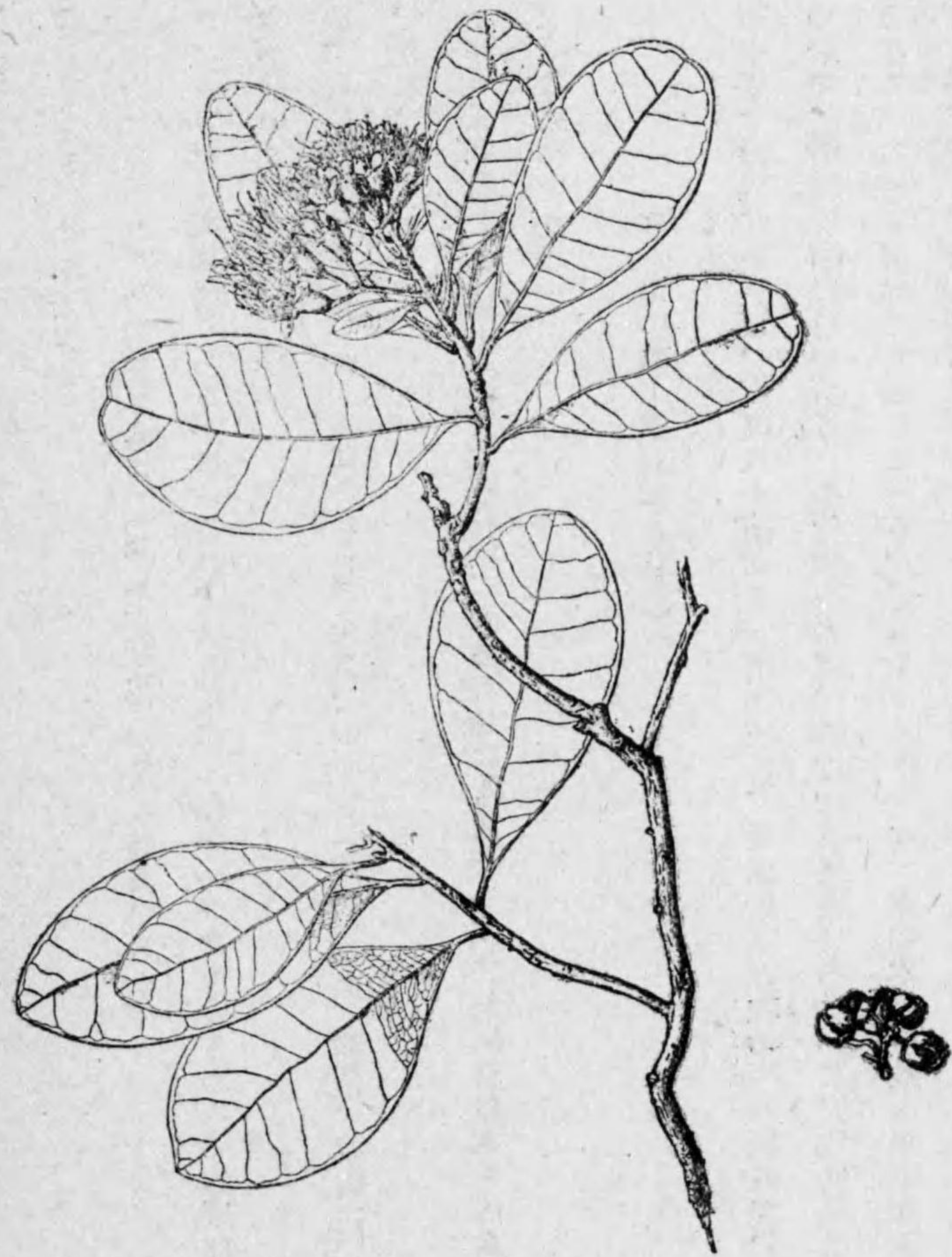
マカアシム材は灰褐色であるが屢々黄色、綠色及び赤色がかつたものもある。木理は美しく堅重で耐久力が強。

用途、家屋建築 (梁、柱、床、窓闕)、箆筒、家具、ボート (甲板、側面、縦舵)、電信柱、工具の持手、洗椀、枕木、杣。

フトモモ (*Eugenia*) 属の樹種は何れの二羽柿科林にも散在し、二羽柿科樹木と同高な場合よりも下生えとなることが多い。

マンコノ (Mancono)

樹高中庸で樹幹は不整形、直径八十糎乃至一米に達し、葉は長さ五糎乃至八糎五耗、幅三糎乃至六糎、平滑で、裏面は稍白色である。邊材は淡赤色、心材は黄褐色であるが日光に曝せばチョコレート褐色となる。木理は美麗で撚纏して居る。恐らくフィリッピン産の木材中最も堅重な樹木であらう。耐久力も甚だ強く、癒瘡木 (*Lignum-vitae*) (アメリカ産の堅木) のよい代用品となる。



(挿圖五十七) Mancono (*Xanthostemon verdugonianus*)
 上部は花、右下は果實 (實物の約二分の一)

用途、柱、杙、木工具、工具の持手、滑車、軸承。

ミンダナオ島北東部及びその近在諸島に最もよく生育して居る。

分布、チカオ島、ロンブロン島、レイテ島、クリオン群島、バラワン島、チナガト島、チナゴ島。

學名、サントステモン・ベルツゴニアヌス (*Xanthostemon verdugonianus*)

地方名、パロ・デ・ヒエロ (Palo de hierro) (スペイン語)、ツガス (Tugas) (ピサヤ語)。

其の他

スドヤン (Sudyang) はスリガオ州及びその近隣諸島に産する樹木で、材は甚だ堅重、耐久力も強

50

マラバヤバス (Malabaybas) 又はチガ (tiga) (*Tristania deorticata*) は乾燥した海邊の丘陵に生育して居る。タンギルニ檳林に交り、低い山の頂上などの著しく乾いた地に所狭く群生して居るのを屢々發見する。樹皮は度々脱落するから、灰色の表皮は平滑である。バヤバスに酷似して居るためマラバヤスの名稱がある。材は赤褐色、マンコノの如く甚だ堅重である。

バヤバス (Bayabas) 又はグアバ (Guava) (*Psidium guajava*) は輸入樹種であるが栽培されてはゐない。果實は食用、樹木は薪となる。再生林に特殊な趣を添へるものである。

ユーカリノキの一種、ユーゲニヤ、ナウチニアナ (*E. nouhuiana*) はサンボアンガ地方に生育して居るが恐らく移植されたものであらう。

マラスラシ (*Malasiasi*) (*Leptospermum flavescens*) は山頂で群生する樹木である。
コウシユンツゲ (*Decaspermum*) 属の二樹種、デカスヘルナム・ブランコイ (*Decaspermum blanci*) とデカスベルナム・パニキユラタム (*D. paniculatum*) は山頂近くに生育し、後者は類群生的な傾向がある。

タワリス又はサガサ (*Osbornia octodonka*) は紅樹林の外郭或は砂の多い海邊に生育する矮樹で、材は堅硬、耐久力が強い。

左のフトモモ属樹種の果實は食用となる。

カルブゴブ (*E. cabubob*)、ツハット又はルンボイ (*E. jambolana*)

マコバ (*E. javanica*)、タンボイ (*E. jambos*) 等。

クリス科植物 (*Kulis*) (*Melastomataceae*) 野牡丹科

野牡丹科樹種は矮小にして屢々下生えをなす。

クリス (學名—*Memoylon edule*) は矮樹で、二羽柿科林の下生えをなし、材は堅硬、耐久力強く、黄楊フグの代用となる。

朝鮮人蔘科又はマラパパヤ科植物 (*Ginseng*,

Malapapaya) (*Araliaceae*)、ソウジギ科

マラババヤ (*Malapapaya*)

樹高二十米乃至三十米、直径五十糎乃至六十糎、樹幹は通直で十五米乃至十八米に達する。稚樹の樹冠は一個のかたまりであるが、老樹の樹冠は數本の太枝から成りその太枝は夫々樹冠を有つて居る。

樹皮は厚さ一糎二糎乃至一糎五糎、淡灰色又は褐色で縦條がある。韌皮は白色で黄色の放射組織があつて脆い。密に互生する複葉は長さ一米に達し、多くの葉片より成る。葉片の縁は鋸齒状をなし、長さ十二糎乃至二十五糎、幅五糎乃至十糎である。

材は黄灰色、甚だ輕軟で、木理は通直、加工し易い。マッチの軸木としては最も重寶であるがその他輕建築物、マッチ箱、荷箱、筏などに用ひらる。

分布、ルソン島（バンパンガ、パタアン、リサール、ラグナ、ダヤバス）、スリガオ、バシラン島。その他
到る處に生育して居る。

概して再生林に生育する樹木であるが、二羽柿科林、特にアビトン、ラウアン林に散在して居る。

學名、ポリシアス・ノドサ (*Polyscias nodosa*)

地方名、ピマス・ピマス (*Bias-bias*) (タガログ語、ビサヤ語)、ボンリン (*Bongling*) 及びその類似語
(タガログ語、ビサヤ語)、マラサプサプ (*Malasapap*) (バンパンガ州及びその近在諸州)、マンマン (*Mano-
mano*) (バシラン島)、ツクト・ランギット (*Tukud-langit*) (パタアン州)。

ドッグウッド又はマラタパイ科植物 (*Dogwood,*

Malatapai) (*Cornaceae*) みづき科

用材として重要なものはマラタパイ又はグンタパイ (學名—*Alungium longiflorum*) のみである。
マラタパイの邊材は鮮明な淡黄色で、コーヒ色の心材と顯著な境をなして居る。材質は堅重中庸、
木理は美しく加工が容易である。地方によつては建築に使用し、家具、杖にも用ふ。

グッタペルカ科又はベチス科植物 (*Gutta-*

percha, Betis) (*Sapotaceae*) 赤鐵科

本科の樹種は喬木で葉は互生、靱皮は粘い乳狀の樹液を含有し、樹皮を傷つけば少量分泌する。
材を水又は唾液で摩擦すれば泡を生ずる。

ベチス (*Betis*)

樹高三十五米乃至四十米、直径八十糎乃至一米、ルソン島のみには生育する様で甚しく疎生する。
樹皮は厚さ五糎乃至八糎、褐色又は赤褐色。稚樹の樹皮は類平滑で、淡色の縦條があるが、老樹に
なれば角皮となつて隆起する。靱皮は褐赤色。葉は單葉、互生、小枝の先に群集して居る。表面の葉
脈上及び葉裏全體には、褐色の小毛が密生して居る。長さ十糎乃至三十三糎、幅五糎乃至十糎である。
材は暗赤色、甚だ堅重で苦味がある。木理は明瞭で通直。耐久力が強く、杣として愛用される。
用途、造船 (龍骨、船尾材)、家屋建築 (柱、床、扉、桷)、鐵道枕木、木工具、工具の持手、埠頭築造。
分布、ルソン島 (カガヤン、リサル、タヤバス、カマリネス)、サマル島。

學名、イリベ・ベチス (*Ilipe betis*)

地方名、バカヤオ (*Bakayao*) (イロカノ語、パンガシナン州、タガログ語)、ツヨグ・ツヨグ (*Duyog-*



挿圖五十八) Betis (Illipe betis)

左下は果實群、右は花集と嫩葉 (實物の約二分の一)

duyog); (マサヤ語)。ラミギエン (Lamigien) (北部ルソン島)、パッパガイ (Pappagai)、ハサク (Pasak) (タガログ語、サンバレス州)、ピアング (Pianga) (カガヤン州)、タリポポ (Talipopo) (ビサヤ語)、ウリエ (Urien) (カガヤン州)。
 コタバト産のマニリグ (Manilig) と稱する樹木はベチスと同材のやうであるが、恐らく近似樹種であらう。

ハンサラギン (Bansalagin)

樹高二十五米乃至三十米、直径八十糎乃至九十糎に達する。樹幹は通直、整形で板根がなく、長さ
 は樹高の半ばに足りない。海岸丘陵の乾燥した地にモラベと交つて生育する陽樹である。

樹皮は厚さ八糎乃至一糎、黒色又は類黒色。著しい隆起線は横の龜裂によつて矩形、長菱形の網模
 様をなしてゐる。韌皮は赤色、表皮の溝の下に當る部分には白色の縦線がある。邊材に面する部分か
 ら濃い乳状の樹液を少量分泌する。質は脆弱。

葉は單葉、互生、平滑で長さ四糎乃至十二糎、幅二糎乃至四糎、小枝の先に群集して居る。果實は
 黄赤色である。

邊材は淡赤色、心材は暗赤色、材質甚だ堅重で、木理は美しいが苦味がある。水又は唾液で摩擦す

れば泡を生ずる。ベチスに酷似するが、ベチスより美しく、堅重で光澤がある。建築材としては最上で海中の杣に適する。

用途、工具の持手、家屋建築（柱、梁、床）、挽物細工、造船（龍骨、木釘、綱通し、綱止栓、舵輪の把柄）。分布、ルソン島（カガヤン、イロコス・スル、ヌエバ・エシハ、サンバレス、バタアン、タヤバス、ソルソゴン）、ボリロ島、チカオ島、マスバテ島、ミンドロ島、クリオン島、サマル島、ミンダナオ島（サンボアング、コタバト）、タウイ・タウイ島、バラワン島。

バンサラギンはミムソプス (*Mimusops*) 属の一種である。

地方名、アナク・バツ (*Anak-batu*) (タウイ・タウイ島)、ツヨグ・ツヨグ (*Duyog-duyog*) (ビサヤ語)、ガタサン (*Gatasan*) (ヌエバ・エシハ州、イロカノ語)、カビキ (*Cabiqui*) (タガログ語)、リガヤン (*Rigayan*) (モロ語)、パツバガン (*Pappagan*) (カガヤン州)、バトサラゴン (*Patsaragon*) (サマル島)、ピセク (*Pisek*) (イロカノ語)、タリポポ (*Talipopo*) (ビサヤ語)。

ナ ト (Nato)

樹高三十五米乃至四十五米、直径九十糎乃至一米二十糎に達する巨木である。樹幹は樹高の四分の一乃至半分を占め稍通直で著しい板根がある。樹冠は半ば開き不整形であり、二羽柿科林に散在する

半陰樹である。

樹皮は厚さ一種五糎乃至二種五糎、縦の龜裂に沿ふて分裂する。龜裂の中にはコルク質の隆起線があつて恰も角皮の觀がある。靱皮は鮭肉赤色、粒状で脆い。傷つけば乳状樹液を分泌する。葉は單葉、互生平滑又は類平滑、長さ九糎乃至十七糎、幅四糎乃至七糎。

材色は淡い濁赤色、堅重は中庸で、波状をした木理は麗はしい。材色その他の特性はレッド・ラウ

アン及びタンギルに酷似し、用途も略ぼ同じである。

分布、ルソン島 (イロコス・スル、アブラ、パンガシナン、サンバレス、リサル、バタアン、ラグナ、タヤバス)、ミンドロ島、ギマラス島。

學名、バラキウム・ルソニエンセ (*Palaguium luzonense*)

地方名、ビタンホル (*Bitanhol*) (ギマラス島)、ツリタン (*Dulian*) (タヤバス州)、ガタサン (*Gatasan*) (イロカノ語)、パロク・パロク (*Palok-palok*) (ニタアン州)、タガトイ (*Tagatoy*) (ニタアン州)、タカラ (*Takaran*) (パンガシナン州)、ウアカタン (*Uakatan*) (ミンドロ島)。

マラクマラク (*Malacmalac*)

樹高及びその他の特性はナトに酷似する。樹皮は厚さ一種五糎乃至二種、灰褐色で、斷續的な縦線

又は溝があり、角皮的傾向もある。

靱皮は赤色、溝の下に當る部分には淡色の條がある。邊材に接した部分は粘い乳狀の樹液を分泌する。

葉は單葉、互生、裏面には金褐色の軟毛が密生して居る。長さ十四糎乃至二十八糎、幅六糎乃至十四糎。材はナトに著しく酷似し、用途も又同じである。

分布、ルソン島(タルラック、ヌエバ・エシハ、サンバレス、パンパンガ、プラカン、パタアン、リサル、ラグナ、バタンガス、タヤバス、アルバイ)、ミンドロ島、パラワン島。

學名、バラキウム・フィリッペンセ (*Palaguin philippense*)

地方名、アラカアク (Alakank) (タガログ語)、バニチ (Baniti) (ミタアン州)、タヨゴン (Tayogong) (サンバレス州)。

マニクニク (Manioc)

樹高三十三米乃至三十五米、直徑八十糎乃至九十糎で通直、整形な樹幹は二十米に達する。板根は中庸、樹冠は扁平で不整形である。樹皮は厚さ一糎八分乃至二糎五分、暗灰色又は暗褐色。幅三糎或は三糎以下の縦溝がある。靱皮は赤色、傷つければ乳狀樹液を分泌する。葉は單葉、互生、平滑、長

さ六糎乃至十二糎、幅二糎五分乃至四糎五分。材色は赤色、木理が美しく堅重中庸。用途はオホバアカテツ (*Palaguin*) 屬の他の樹種に同じである。

分布、ルソン島(カガヤン、パタアン、ラグナ、タヤバス)、マスバテ島、ミンドロ島。

學名、バラキウム・テヌイベチオラタム (*Palaguin tenuicollatum*)

地方名、ベチス (Betis) (マスバテ島及びタヤバス州)、マユシッパ (Mayusip) (ミンドロ島)、パンゴ (Pango) (カガヤン州)。

オホバアカテツ屬には以上述べた他にも樹種が多い。併し資料が少いから十分な説明をすることは出来ない。ミシダナオ島のグツタベルカはオホバアカテツ屬である。

バニチ (*Ilupe raniflora*) は時によつてタンギルとも云ひ、樹高は中庸で、その材はオホバアカテツ屬の材に酷似して居る。

アカテツ屬 (*Sideroxylon*) のホワイト・ナト (學名 *Nato puti*) その他はオホバアカテツ屬の材に酷似する材を提供するが、材色が赤色でない。

柿又はエボニー(黒檀) (Persimmon, Ebony)

科植物 (Ebenaceae) かき科

柿科植物には黒檀があるから商業上重要である。葉は單葉、互生、革質。樹高は矮小又は中庸で、黒色の粗い樹皮を有する。邊材は灰白色又は赤色。心材は邊材と同色なものもあるが、多くは邊材と同色である上に黒色の縞があるか、黒色の上に灰白色又は赤色の縞がある。或は眞黒なものもある。心材の眞黒な樹種を、フィリッピンでは眞黒檀フルエボニーと稱し、黒色の上に異色の縞を有するものはカマゴン (Camagon) 又はボロンゲタ (Bolongeta) と呼ばれて居る。カキ (*Diospyros*) 屬の樹種には黒色の心材があるもの或はないもの等多々あるが資料不足であるから詳述は出来ない。

縞黒檀は、紅樹林濕地の鹽分を含んだ泥土中で燃焼すれば全體が黒色になるといふ。フィリッピン島に於ける黒檀の用途は、主として樂器、高級家具、箆筒類、杖等であるが樹木の蓄積量が少いから輸出されてゐない。黒色の心材のないものは地方につて種々な方面に使用されて居る。

黒 檀 (Ebony)

海邊の乾燥した丘陵又は紅樹林濕地の外縁に生育する矮樹で、稀に樹高二十米以上、直径四十種以上に達する。樹皮は厚さ四耗乃至一耗、光澤ある黒色を呈し、鐵灰色の斑點は樹皮の脱落した跡である。靱皮は褐赤色。

葉は單葉、互生、革質で平滑、長さ二種乃至六種五耗、幅一種乃至四種である。邊材は灰白色又はクリーム白色で幅廣く、眞黒で狭い心材と明瞭な境をなして居る。枝、象眼の縁、欄ツル、工具の柄、高級家具に用ふ。蓄積量は少ない。

分布、ルソン島 (カガヤン、バレル、パンガシナン、サンバレス、タヤバス、カマリネス)、バタネス群島、ミンドロ島、マスバテ島、レイテ島、バナイ島、ミンダナオ島 (スリガオ、サンボアンガ、ダバオ)、チナゴ島、チナゴト島。

學名、マバ・ブキシホリア (*Maba buxifolia*)

『エボニー』と云ふ名稱はスペイン語の『エボノ』から普及したもので、フィリッピン固有の名稱は『バンツリナオ (Bantulino)』及びその類似語である。その他地方によつては左の如き名稱がある。ガラリガル (Galargal) (タガログ語)、カロヤナン (Kaloyanan) (パンパンガ州)、ルヨン (Luyong) (タガログ語)、マラタラン (Malatang) (タガログ語)、タンギンチン (Tangintin) (スリガオ州)。

カ マ ゴ ン (Camagon)

樹高二十五米乃至三十二米、直径六十種乃至八十種に達する栽培果樹で、その果實はマボロ (Mabolo) と云ふ。海邊の丘陵又は二羽柿科林の土壤の深い處に生育して居る。

樹皮は厚さ三耗乃至五耗、褐色又は略ぼ黒色で粗糙、中皮は黒色、韌皮は淡紅色。葉は單葉、互生、革質で、裏面には白色の美しい小毛が密生して居る。長さ十耗乃至二十二耗、幅四耗乃至九耗。邊材は幅廣く、稍灰色又は淡赤色、心材は黒色で、褐色又は灰色、赤色の縞がある。材質甚だ堅重で、木理は美麗。用途はエボニーと同じであるが蓄積量は遙かに多い。

分布、全島到る處で栽培されて居る。

學名、チオスピロス・ヂスコロル (*Diospyros discolor*)

地方名、アマガ (Amaga) 及びその類似語 (タガログ語、ピサヤ語、バンツリナオ (Pantulinao) 及びその類似語 (タガログ語)、イツマン (Iuman) (レイテ島)、カラントバイ (Kalangtapai) (タガログ語)、カロヤナン (Kaloyanan) (バンパンガ州)、タラン (Talang) (リサル州)。

ボロンゲタ (*Bolongeta*)

種々な點でカマゴンに酷似するが、矮樹で二羽柿科林の下生えとなつて居る。樹皮は厚さ三耗乃至五耗、類黒色。ざざくした刺狀突起があつて表面は不滑である。中皮は黒色、韌皮は淡赤色。葉は單葉、互生、稍平滑、裏面は肉眼では殆んど見えない小毛が疎生して居る。長さ九耗乃至十七耗、幅二耗五耗乃至八耗である。



(挿圖五十九) *Bolongeta* (*Diospyros pilosanthera*)

左は果實、右は葉と花 (實物の約二分の一)

邊材は淡赤色、心材は往々邊材と同色であるが、概して赤色の縞のある黒色である。大きな樹木の心材はカマゴンと區別し難い。材質甚だ堅重で、木理は美麗。用途はカマゴンと同じであるが、地方によつては邊材、心材共に建築用として用ひられて居る。

分存、ルソン島(カガヤン、イロコス・ノルテ、イロコス・スル、ヌエバ・エシハ、パンガシナン、バレル、サンバレス、バタアン、リサル、ラグナ、バタンガス、タヤバス、カマリネス)、カミンギン群島、マスバテ島、ミンドロ島、サマル島、チナゴ島。

學名、チオスピロス・ピロサンテラ (*Diospyros pilosantha*)

地方名、アリンタタオ (Arintatao) 及びその類似語(タガログ語)、アナム (Anam) (ピコル語)、アタ・アタ (Ata-ata) (ビサヤ語)、バンツリナオ (Bantulino) 及びその類似語(タガログ語)、カマゴン (Camagon) (タガログ語)、ダンブハラ (Dambuhala) (リサル州)、エバノ (Ebano) (スペイン語)、ガランガン (Galangan) (パンガシナン州)、マラタラン (Malatang) (タガログ語)。

アタ・アタ (Ata-ata)

樹高、形態、樹皮の特性何れもポロンゲタに酷似する。ビサヤ群島、ミンダナオ島で豊富に産し、二羽柿科林中に存在する。

葉は稍平滑であるが、裏面に白色の蠟粉がある。長さ十糎乃至十七糎、幅二糎五毫乃至五糎、邊材は灰白色。心材は邊材と同色なる場合もあるが、概して黒色である。白色の縞があるものとなつたものとの兩様がある。

學名、チオスピロス・ミンダナエンシス (*Diospyros mindanaensis*)

地方名、アナム (Anam) (タヤバス州)、タピラク (Tapilak) (モロ語)。

アタ・アタ及びその他のカキ屬樹種の心材は材色如何によつて、エボニー、カマゴン、ポロンゲタと稱して販賣される。全體が黒色であればエボニー、黒色で縞の少ないものが、カマゴン、縞の多いものがポロンゲタである。

ストリキニーネ又はウルン科植物 (Strychnine,

Urung) (Loganiaceae) まちん科

代表的樹木はウルン (*Fagraea fragrans*) である。ウルンの新材は黄色であるが古びると淡褐色となる。堅重で木理が美しく、耐久性がある。

用途、柱、造船、杣、家屋建築。

主としてバラワン島に産し、『ドロ (dolo)』及び『テカ (teca)』とも稱せらる。

ばしくるもん又はヂタ科植物 (Dogbane,

Dita) (Apocynaceae) きようちくとつ科

樹皮に多量の乳状樹液を含有し、葉は對生或は輪生であるから判別し易い。

チ タ (或はヂタア)

樹高二十五米乃至三十米、直径八十糎乃至一米に達する。樹幹には堅溝があつて、板根は目立たない。乾季の明白な地方の二羽柿科林に疎生し、バラン林(再生林)に生育するものは樹高が低い。陽樹である。

樹皮は厚さ八糎乃至一糎、灰黄色又は褐黄色で、コルク質の隆起物が附着して居る。靱皮は黄色、粒状で脆い。傷つけば、キニーネの味を有する稀薄な乳状液を多量に分泌する。葉は平滑で裏面に粉緑色の蠟粉があり。四枚乃至七枚が輪生をなし、各葉片の長さは五糎乃至二十糎、幅一糎五糎乃至六糎五糎である。

材色はクリーム白色。輕軟で苦味があり容易に褪色する。

用途、輕建築物、家具、靴の木底、樂器、鞘、漁業網の浮子。

分布、ルソン島(カガヤン、イロコス・ノルテ、イサペラ、アブラ、ボントツク、ウニオン、バタアン、リサル、ラグナ、タヤバス、カマリネス、ソルソゴン、アルバイ)、ミンドロ島、サマル島、レイテ島、サンボアング地方、バラワン島、バラバク島。

學名、アルストニア・スコラリス (*Alstonia scholaris*)

地方名、アリバウイン (Alipain) (北部ルソン島)、アンダラヤン (Andarayan) (北部ルソン島)、デルバオン (Dilupaon) 及びその類似語 (北部ルソン島)、ラニタン (Tanitan) (ビサヤ語)、オプライ (Oplai) (カガヤン州)、ポライ (Polai) (パンガシナン州)、タニタン (Tanitan) (ビサヤ語)。

バ チ ノ (Batino)

ヂタに酷似してゐるが稍矮小である。陽樹で乾燥した丘陵に生育する。樹皮は厚さ六糎乃至八糎、灰色で稍黄色のコルク質隆起線がある。靱皮は黄褐色乳状樹液を含有する。葉は單葉で、四枚(時には三枚)が輪生をなし、裏面には小毛が疎生して居る。長さ十糎乃至二十糎、幅三糎乃至七糎五糎。材色はクリーム白色。木理美しく、堅重は中庸。苦味、惡臭を有する。家屋建築(柱、桷、側面等)及び枕木に用ふ。

分布、ルソン島(カガヤン、イロコス・スル、パンガシナン、バレル、リサル、ラグナ、バタンガス、タヤバス、

カマリネス、ミンドロ島、ギマラス島、ラナオ島。

學名、アルストニア・マクロヒラ (*Alstonia macrophylla*)

地方名、イタン・イタン (*Itang-itang*) (ギマラス島)、カラッチ (*Kalatchi*) (パンガシナン州)、バンゴ
ラクロエン (*Pangolakoen*) (北部ルソン島)、タンギタン (*Tangitan*) (ビサヤ語)、ウガヤン (*Ughayan*) (ビ
サヤ語)。

ラネテ類 (*Lanete*)

樹高、形態、樹皮を同じくし、葉、花、果實の相違したものを總括してラネテ類とした。

ラネテ

樹高二十米乃至二十五米、直径六十種以上、樹幹は彎曲して堅溝がある。樹冠は開いて不整形、二
羽柿科林の間隙ある地に疎生して居る。

樹皮は厚さ四耗乃至八耗、淡灰色又は黄褐色で稍平滑。韌皮は粒状をなして黄色、傷つければ乳液
を多量に分泌する。葉は單葉、互生、裏面に天鵞絨状毛があり(時には表面にもある) 長さ七種乃至十
二種、幅二種五耗乃至五種五耗、縁は多少明瞭な鋸齒状をして居る。邊材及び心材は共に古い象牙の

やうな淡クリーム色を呈して居る。材質は軟乃至堅重中庸である。

用途、輕建築物、家具、木靴の底、臺所道具、椅子、樂器、函、挽物細工、窓闔、鞘、彫刻用材と
して愛用される。

分布、ルソン島(カガヤン、アブラ、イロコス・スル、レバント、ウニオン、ベンダエツト、ヌエバ・エシハ、
パンガシナン、サンバレス、リサル、ラグナ)、ミンドロ島、クリオン島。

學名、リグチア・ラニチ (*Wrightia laniti*)

地方名、アノトン (*Anotong*) (サンバレス州)、バルバット (*Balubad*) (北部ルソン島)、ラミシ (*Lamisi*)
或はラムシ (*Lamusi*) (イロカノ語)、ラニテン (*Laniteng*) (リサル州)、ラノチ (*Lanoti*) (イロカノ語)、タ
ングス (*Tanghas*) (ビサヤ語)、チギグ (*Tigig*) (ビサヤ語)。
『ラネテ』又は『ラニチ』はタガログ語の名稱である。

Wrightia calycina (俗名不詳)

同じくラネテと稱するがミンダナオ島産のものは前記のラネテ (*Wrightia laniti*) より樹木が遙かに
大きい。葉の小毛は少なく、長さ五種乃至十六種五耗、幅一種五耗乃至六種五耗である。乾季の明白
でない地方に多く、タヤバス州(ルソン島)、マスバテ島、レイテ島、ギマラス島、オックシデンタル。

ネグロス島、バラワン島、サンボアンガ地方（ミンダナオ島）、ラナオ地方に分布する。

アノナン科植物 (Anonang) (Borraginaceae) むらさき科

用材として重要なものはない。

アノナン (*Cordia blancoi*) は耐火力があるから、草地にあちこちと孤立し再生林で特殊な存在をなしてゐる。

印度櫟又はモラベ (Teak, Molave) 科植物

(Verbenaceae) くまつばら科

葉は對生の單葉又は掌狀複葉である。

モラベ

例外的に樹高三十五米乃至三十八米、直径二米、枝下十六米乃至二十米に達するが、普通は樹高三十米以下である。地味の瘦せた所では樹木が細く、枝下は二米にも達しない。堅溝のある樹幹は概して彎曲し、板根がある。樹冠は開いて横に廣い。全島到る處に存在し、特に海邊の低い丘陵地、石灰



(挿圖六十) Molave (*Vitex parviflora*)

上部は集花、左下は花、右下は果實群 (實物の約二分の一)

質、火山岩質の地に生育する。陽樹で乾季に一部分或は全部落葉する。

樹皮は厚さ八耗乃至一耗、黄褐色又は灰色、天鵞絨のやうな觸感がある。時には小さい薄片となつて脱落するが、さもないときは平滑である。靱皮は淡黄色で暗黄色の輪があるが、外氣に接すれば直ちに褐色となる。葉は對生、通常三枚の複葉をなし、葉片は平滑、長さ四耗乃至十五耗、幅二耗五耗乃至七耗である。

邊材はクリーム白色、心材は淡黄色であるが、外氣に接すれば濁褐色となる。撚纏して短い木理は美しい。割れ易く堅重で加工は易容。アルカリに會へば緑黄色となる。苦味と微臭があり、水浸液は緑黄色である。

用途、建築材としては第一級に位し、チークのよい代用材である。菌類、船食蟲、白蟻の侵害に抵抗力があり、家屋建築(柱、扉、室内造作、床、梁、側面、闔)、造船(肘材、船首の水切り、船尾材)、荷車(心棒、輪縁、輻)、橋梁、箆筒類、水牛の軛、木齒車、埠頭、海中代、柱、鋤、米臼、鐵道枕木、甘蔗壓搾器、鋪道用材、家具、欄干及びその他の曲木細工、ヘンプ壓搾器、彫刻、木工具、用具の柄、平板等に用ひられる。

分布、全島到る處に分布するが何處も蓄積量が少いから収益とはならない。

學名、ビテクス・バルビフロラ (*Vitex parviflora*)

地方名、アグバラオ (Agbarao) (ビサヤ語)、アグノラオ (Aguhero) (ビサヤ語)、アムラウオン (Amuranon) (ビコル語)、アムガウアン (Amugawan) (イロカノ語、ビサヤ語、ビコル語)、バンゴンゴン (Bangongon) (ビサヤ語)、ブラオン (Balacn) (ビサヤ語)、タガログ語、バンバンガ州、ブラウエン (Balauen) (バンガシナン州)、ブラウイサン (Balaisan) (イロカノ語)、ブラウン (Baluan) (サンズレス州、バンパンガ州)、ブヨグ・トンゴン (Buyog tongon) (スリガオ州)、ダニツガ (Danigga) (イロカノ語)、ハムラウン (Hamurau) (ビサヤ語)、ハムラオン (Hamulon) (タガログ語)、ハムラウオン (Hamurauon) (ビコル語)、ハムルサン (Hamursan) (ビコル語)、カリバヤン (Kalibayan) (ビサヤ語)、カリバン (Kalipapa) (モロ語)、クリバン (Kulipapa) (モロ語)、ラナン (Ranahan) (ビコル語)、マラウン (Marau) (ビサヤ語)、サガッド (Sagad) (イロカノ語)、サリンカバ (Salingkapa) (ギマラス島)、ツガス (Tugas) (ビサヤ語)。

『モラベ』はタガログ語の『ムラウイン』から訛つた言葉である。

ハヤリー・リーフ・モラベ (*Vitex pubescens*) はその材モラベに酷似し、市場ではモラベといはれて居る。ミンドロ島、ギマラス島、クリオン島、バラワン島に産する。

材質の硬軟によつて雄モラベ (ムラウイン・バト (Malawin-bato) 及び雌モラベ (ムラウイン・アン (Malawin-ano) の別がある。又 *Vitex parviflora* は他のモラベより材が軟質である。概して稚樹は老樹より軟かく、肥沃地に生育したものは瘦土に生育したものより軟かい。

一様にムラウイン・アソと稱する樹木にも判然とした種類があり、その中最も重要なものはカリバ
 バ・アソ (*Kalipapa-aso*) (*Vitex pentaphylla*) である。カリババ・アソは樹高中庸で、肥沃な低地に
 生育する。材質は他のモラベに比して遙かに軟かく、葉片は五枚ある。第二はリンゴ・リンゴ (*Lingo-lingo*) (*Vitex turrescens*) で、ルソン島及びその近在諸島に生育し、葉片は五枚ある。第三のアラ
 ガオ (*Alagno*) (*Premna nausosa*) は葉が互生の單葉、両面に美しい天鵞絨状毛がある。

ササリット (*Sasalit*)

樹高二十五米乃至二十八米、直徑七十五糎に達するが、普通はこれより矮小である。樹幹には板根
 がなく、彎曲した堅溝がある。二羽柿科林の下生えをなすか、開豁地に生育する。樹皮は厚さ八糎乃
 至一糎、灰色又は褐色、受皿の如き浅い窪みがあつて表面は稍粗糙、韌皮は脆い。葉は對生の三枚乃
 至七枚複葉で、葉片は平滑、長さ五糎五耗乃至二十八糎、幅二糎五耗乃至十二糎五耗である。材色は
 淡い黄褐色又は暗黄褐色。甚だ堅重で耐久力が強く、モラベより強靱である。用途はモラベに全く等
 しく、市場では屢々モラベと稱せられて居る。

分布、ルソン島 (カガヤン、パンガシナン、プリンシペ、サンバレス、タヤバス、アルバイ、ソルソゴン)、チ
 カオ島、サマル島、ネグロス島、サンボアンガ地方。



(挿圖六十一) *Sasalit* (*Vitex aherniana*)

(實物大)

學名、ビテクス・アヘルニアナ (*Vitex aheniana*)

地方名、ダリババ (*Dalipapa*) (カガヤン州)、ツングラ (*Dungula*) (ネグロス島)、グアルベルト (*Guallberto*) (イロカノ語)、イガン (*Igamp*) (プリンシペ州)、カリババ (*Kalipapa*) (サマル島、アルバイ州)。

アビ・アビ (*Avicennia officinalis*) は紅樹林濕地に生育する矮樹である。葉は對生で裏面が白色。材質は堅重であるが甚だ脆く、特殊の組織をなして居る。

チーケ

チークはフィリッピン原産ではない。南部諸島、特にサンボアンガ地方、バシラン島、スルー群島で小規模に植林し、目下直徑八十糎内外にまで生長して居る陽樹である。

樹皮は厚さ八糎乃至二糎、淡褐色又は灰色、縦條があつて一見不明瞭な角皮をして居る觀がある。表面は軟い紙質層に蔽はれ、長い薄片となつて脱落する。靱皮は色淡く、克明な褐色の樹脂線がある。外氣に接すれば直ちに黄褐色となる。葉は單葉、對生、裏面に天鵞絨狀毛が密生し、長さ十九糎乃至三十三糎、幅十三糎五糎乃至二十二糎に及ぶが嫩葉はこれより遙かに大きい。

邊材は色淡く、心材は濃い金褐色であるが、年と共に褐色、黒色と變はる。堅重は中庸、木理は粗く通直であり強い芳香がある。



(挿圖六十二) Teak (*Tectona grandis*)

上部は花集、左下は果實 (實物の約二分の一)

チークは南洋材中最も著名で、造船、高級建築物、家具、彫刻に用ふ。
分布、リサル州(ルソン島)、サンボアンガ地方(ミンダナオ島)、バシラン島、ホロ島。
學名、テクトナ・グランデス (*Tectona grandis*)
スペイン語では『テカ』と稱する。

きさくげ又はバナイ・バナイ科植物 (Catalpa, Banai-banai) (Bignoniaceae) のうぜんかつら科

用材的價值はなく普通に存在するものは三種ある。

バナイ・バナイ (*Radermachera pinnata*)

樹高矮小又は中庸で、葉は二回複葉、華美な花が咲く。バナイ・バナイとラデルマケラ (*Radermachera*) 屬の他の一種は開豁地に生育する。

ピンカピンカハン (*Pinkapinkahan*) (*Oroxylum indicum*)

矮樹で大きな二回複葉があり、平らで廣長な莢は羽のある種子を含む。乾季の明白な地方のみに生

育し、フィリッピンの樹木中最も落葉期間が長いやうである。材は輕軟でマツチの軸木に用ふ。

ツイ (*Tui*) (*Dolichandrone spathulata*)

矮樹で砂の多い海邊及び潮河に沿つてのみ生育する。材は色淡くして軟かく、木靴の底に用ひる。

コーヒー又はバンカル科植物 (Coffee,

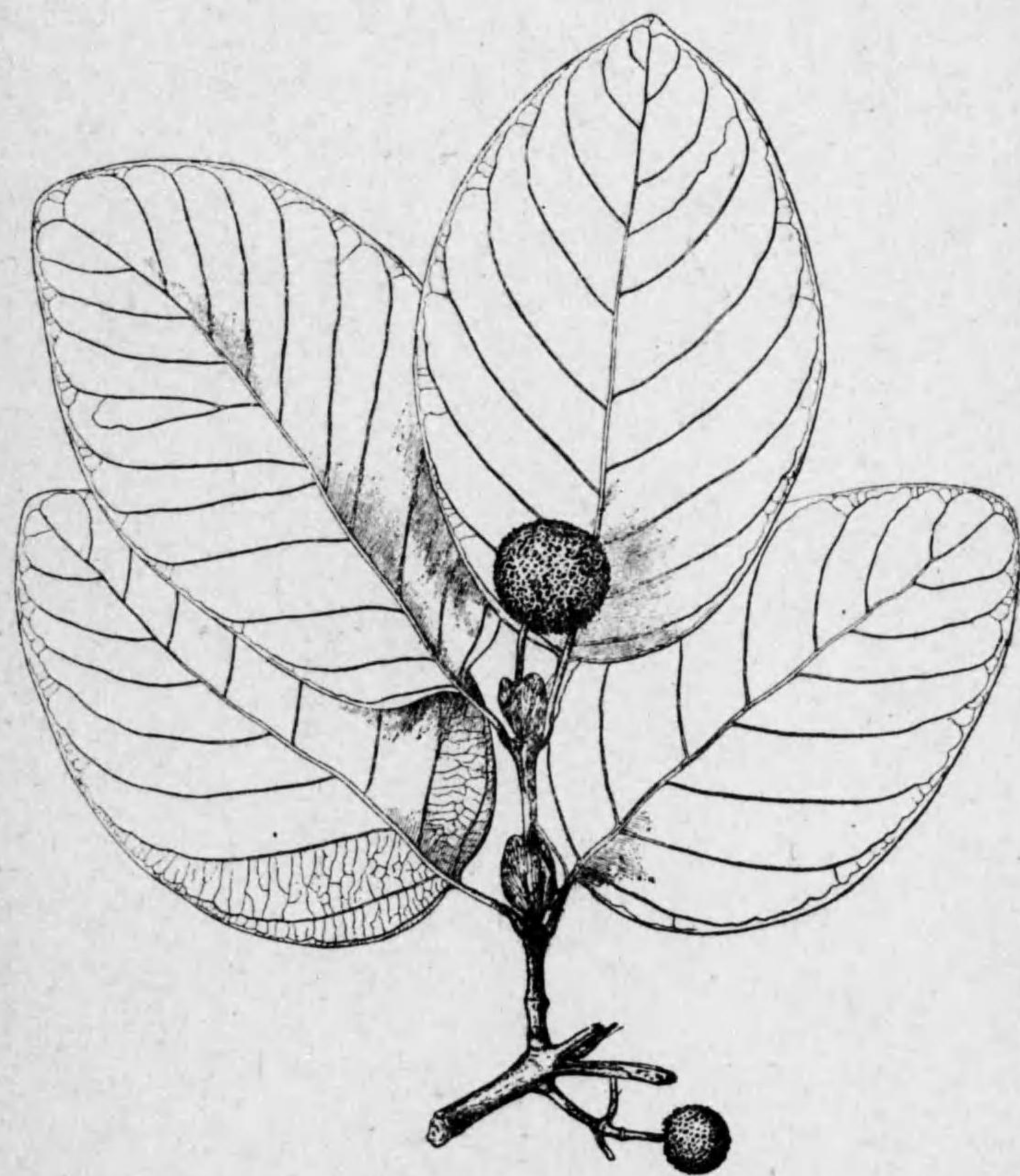
Bancal) (Rubiaceae) あかね科

樹種には下生えをなす矮樹が多く、巨木に類するものは稀である。葉は對生で、葉柄間に托葉があるから(對生葉の葉柄の中間に葉に似た小さい附屬物がある)、容易に識別することが出来る。

バンカル

樹高は短小又は中庸で樹幹は通直、整形、樹高の約半ばを占めてゐる。海岸平野、或は川に沿つて生育する陽樹である。耐火性があるから時にはラウアン・ハガチャク林を開墾した後の草原に疎生することがある。

樹皮は厚さ一種四耗乃至一種八耗、灰黄色又は灰赤色、鱗状をなして苦味がある。靱皮は黄色。葉



(挿圖六十三) Bancal (*Sarcocephalus cordatus*)

球状のものは花集 (實物の約二分の一)

は長さ十二種乃至二十四種、幅六種五耗乃至十八種五耗である。

邊材は淡黄色、心材は暗黄色、材質は軟乃至堅重中庸である。

用途、家屋建築 (仕切、柱、柵、床、天井)、小舟、家具 (机、椅子)、樽板、桶、布の打板 (パロパロ)、臺所その他の家庭用器具、薪材、彫刻。

學名、サルコセハルス・コルダツス (*Sarcocephalus cordatus*)

殆んど全島到る處に分布し、イロカノ語にては『ブララ』(Balala)と稱する。

バンカルに酷似した樹種は多く、何れもバンカル材と稱せらる。その中マンボグ(Mambog)又はバンカル (*Sarcocephalus jinguhuhui*) は乾季の明白でない地方にのみ生育し、前記のバンカルより葉が小型である。

カラマンサナイ (Calamansay)

『カラマンサナイ』といふ名稱はタニワタリノキ (*Nuclea*) 屬の樹種のみならず、異科の樹種で材色は淡いバラ色なものにも適用されてゐる。[*Ficusia vesnisi* (アランガ類の項) 及びマラカルンピツト (ツグの項) を参照] マニラ市場で一般にカラマンサナイと稱するのは、タニワタリノキ屬の材で、殆んど全島に分布して居る。以下説述するのは特にミンダオ島サンボアンガ地方に生育する樹種に

してである。

樹高四十米、直径七十種に達し、樹幹は通直、整形、軽い板根がある。陽樹で疎生する。樹皮は厚さ八耗乃至一種、淡灰色又は褐色。多少連続したコルク質の隆起線がある。中皮は褐色、鞣皮は鮮黄色だが外氣に接すれば直ちに褐色となる。葉は単葉で對生する。

邊材は帯紅黄色、心材は鮮赤色であるが、外氣に接すれば速かに變じて邊材と同色になる。材質堅重、木理は緻密にして通直。

用途、家屋建築(床、梁、柱、側、窓闌)、小舟の櫓、家具、電信柱、枕木、器具の柄。

以上述べたのはタニワタリノキ屬中の一種に關してであるが、樹皮の特性は同屬の全樹種に略ぼ共通する。

カラマンサナイには左の如き地方名がある。

バンカラウアグ (Bankalaug) (ビサヤ語)、バヤホ (Bayalo) (イロカノ語)、ビスアル (Bisal) (パンガシナン州)、ヒンババット (Himbabat) (イロカノ語)、カラマンサウアン (Kalamansuan) (タガログ語)、カラムゴン (Kalamagon) (ピコル語)、カマンサック (Kamansak) (サンヘルネス州)、マランシング (Malantambaga) (サンボアンガ地方)、スボ・スボ (Subo-subo) (サンヘルネス州)。

(完)

昭和十八年七月五日印刷
昭和十八年七月十日發行

【非賣品】

製本控

何第 號

書名	南洋研究會叢書第 92 號	年	月	日
著者	比律安素林樹木研究會 (四)			
受入		年	月	日
備考				

(規格 A5 東東 3,195)

953
E
420

953
E
420

してである。

樹高四十米、直径七十種に達し、樹幹は通直、整形、軽い板根がある。陽樹で疎生する。樹皮は厚さ八耗乃至一種、淡灰色又は褐色。多少連続したコルク質の隆起線がある。中皮は褐色、鞣皮は鮮黄色だが外氣に接すれば直ちに褐色となる。葉は單葉で對生する。

邊材は帯紅黄色、心材は鮮赤色であるが、外氣に接すれば速かに變じて邊材と同色になる。材質堅重、木理は緻密にして通直。

用途、家屋建築(床、梁、柱、側、窓闌)、小舟の檣、家具、電信柱、枕木、器具の柄。

以上述べたのはタニワタリノキ屬中の一種に關してであるが、樹皮の特性は同屬の全樹種に略ぼ共通する。

カラマンサナイには左の如き地方名がある。

バンカラウアグ (Bankalaug) (ビサヤ語)、バヤホ (Bayaho) (イロカノ語)、ビスアル (Bisal) (バンガシナ州)、ヒンババルット (Himbabulut) (イロカノ語)、カラマンサウアン (Kalamansuan) (タガログ語)、カルマゴン (Kalumagon) (ピコル語)、カマンサック (Kamasek) (サンブレス州)、マランミンガ (Malantumbaga) (サンボアンガ地方)、スポ・スポ (Subosubo) (サンブレス州)。

(完)

昭和十八年七月五日 印刷
昭和十八年七月十日 發行

【非賣品】

東京市京橋區木挽町三丁目十一番地

著作發行 兼印刷者 竹 井 十 郎

東京市神田區旅籠町二ノ二

印刷所 廣 業 館 印 刷 所

東京市京橋區木挽町三丁目十一番地

發行所 南 方 園 研 究 會

不 許
複 製

(規格 A5 東東 3,195)

終